

# 認定特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク

## 定例総会

2017年7月1日（土）13：30～15：00

於： 環境パートナーシップオフィス 会議室

### ＜議題＞

- 1) 2016年度事業報告、決算報告について
- 2) 2017年度事業計画、予算について
- 3) 当NPOへの寄付ならびに認定の更新申請について

## 認定 NPO 法人共存の森ネットワークの活動指針

当 NPO は、「聞き書き甲子園」の活動と、この事業に参加した経験をもつ卒業生有志からはじまった「共存の森」と呼ぶ活動を母体に生まれました。

森とともに生きてきた先人たちの伝統的な暮らしの知恵や技の集積の中に持続可能な社会の基本があることを見据えながら、人と自然・人ととの「共存」を基本とした社会づくりと、新たな価値観の創造に寄与することを目的としています。

そのために、当 NPO は「聞き書き甲子園」の運営をはじめ、「閉じられた生態系－地球－」の上で全人類と他の生物が共存するための「人づくり」、「森づくり」、「地域づくり」、「情報発信」等、様々な活動を展開していきます。

これらの活動を末永く続けていくことが、持続可能な社会の構築への一歩と考えます。そのためには、大人たちから若い世代へ、若い世代から大学生・高校生へと、世代をつないでいくことが重要です。

当 NPO の使命と社会的役割について、会員の皆様の積極的な議論を期待するとともに、引き続き、活動へのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

# 第1号議案-1 2016年度事業報告 <2016年5月1日～2017年4月30日>

## 概要

2002年に始まった「聞き書き甲子園」は本年度、15周年を迎えました。これを機に「聞き書き甲子園」の魅力や活動の意義をさらに多くの人に伝えるため、15周年記念事業を実施しました。

15周年記念事業では、映画上映やトークセッション等を通して、「聞き書き」に参加した高校生の成長やその後の活躍を紹介しました。また、「聞き書き甲子園」の活動のヒントとなった、アメリカの「FOXFIRE」の活動を教育の観点からご紹介いただき、当団体が実施する「聞き書き」の意義や価値について、皆様からご意見や励ましを頂戴しました。

さて、私たちの日々の暮らしや生業（なりわい）のベースとして、欠かせないものがあります。それは、日本列島の豊かで多様な自然と、それと対応した生活文化、つまり、人々が受け継いできた知恵や技術、そして心です。しかし、経済性や効率を優先しがちな現代においては、かつてのような人と自然との関係、人と人との関係、世代と世代のつながりは希薄になってしましました。「聞き書き」は、その希薄となった関係性をつなぎ直し、未来へと引き継ぐ活動です。

高校生による「聞き書き」は、大分県・石川県の世界農業遺産地域でも、当NPOがサポートし、実施しています。農を営む風土や景観を持続可能な形で保全・利用し、将来にわたり継承することが目標です。海外では、インドネシアの高校生とともに、民族の言語や文化の多様性を尊重し、その豊かさを語り伝えるための「聞き書き」に取り組みました。

当NPOでは、小・中学生にも、自然を五感で感じることや人に話を「聞く」ことの楽しさを伝える活動を行っています。

ふるさとの暮らしや漁業をテーマに、漁師さんの話を聞く、「聞き書き」活動は、小・中学校の海洋学習の一環として支援を行っています。また、「学校の森・子どもサミット」では、全国の小学生が、森林での学びや体験を発表し、相互に交流する活動を応援しています。

私たちは「聞く」ことを大切にしていますが、「ただ聞いていただけ」で終わりにするのではなく、それを次のアクションにつなげていくことも大切にしたいと考えています。

「共存の森づくり」は、「聞き書き甲子園」がはじまった当初から、「聞き書き」を終えた高校生や大学生の自発的な取り組みとして、各地の農山漁村をフィールドに展開してきました。

また、地域を大切に、元気にしたいという思いをもつ、高校生、大学生の活動を応援する仕組みとして「ond（オンド）」が昨年から動きはじめました。

さらに20代や30代の卒業生の中には、農山漁村に通うのではなく、地域に根ざして働くこと、生きることを選ぶ人が増えてきました。そうした生き方を目指す人を対象とした人材育成塾「真庭なりわい塾」（岡山県真庭市）も、本年度より開講しました。

当NPOが支援する対象は、小・中学生から高校生、大学生、社会人と多岐にわたりますが、「人と自然・人と人との『共存』を基本とした社会づくりと新たな価値観の創造に寄与する」という、活動の理念は変わりません。

会員の皆様、そして行政や企業、団体、市民の皆様の活動に対するご支援、ご協力に感謝申し上げますとともに、以下、それぞれの活動の詳細についてご報告を申し上げます。

## I 組織

### 1. 会員 (2017年4月30日現在)

	一般会員	ユース会員	法人・団体会員
正会員	46人 (+5)	46人	
賛助会員	21人 28口		4社 8口

※ユース会員・・・・・・満23歳未満で正会員となる方

※()・・・・・・昨年同時期からの増減

### 2. 役員 (敬称略)

体制表

役職	氏名	所属等
理事長	澁澤 壽一	NPO法人樹木・環境ネットワーク協会 理事
副理事長	峯川 大	アサヒビジネス株式会社 (第9回聞き書き甲子園参加)
理事	吉野 奈保子	「聞き書き甲子園」実行委員会 事務局
理事	工藤 大貴	第8回聞き書き甲子園参加
理事	山崎 紀奈里	慶應義塾大学1年生 (第14回聞き書き甲子園参加)
監事	稻本 朱珠	株式会社TSO イノベント (第5回聞き書き甲子園参加)
監事	河合 和香	株式会社マックスコム (第6回聞き書き甲子園参加)

## II 事業

### 1. 人の暮らしと自然をテーマとした青少年等に対する学習・教育事業

#### ① 第15回「聞き書き甲子園」の開催

「聞き書き甲子園」は、毎年、全国の高校生100人が、森・川・海の名人100人を訪ね、自然とともに生きる知恵や技、その生きざまを「聞き書き」によって記録し、発信する活動です。「聞く」ことを通して世代間のコミュニケーションを図り、持続可能な社会を担う若者を育成することを目的に平成14年度より実施しています。

本年度は、全国108校から165人の高校生の応募があり、うち100人の参加を決定しましたが、秋以降、生徒1名が参加を辞退。残り99名のうち64名が「森の名手・名人」に、35名が「海・川の名人」に「聞き書き」を行いました。

事業の運営には22名の学生がスタッフとなり、「高校生が聞き書き甲子園をきっかけに次のアクションを起こせることになること」を目標に、研修プログラムやフォーラム開催日の夜のワークショップ等を企画しました。フォーラムのワークショップには一般社団法人i.club代表の小川悠さんをお招きし、高校生のローカルアクションについてお話をいただきました。

参加高校生の感想には、名人への感謝や敬意のほか、自分の成長を実感したという内容が多く見られました。また、教員からは高校生の積極性が向上したことや、進路に対するビジョンが明確になったことを評価いただきました。

なお、同事業は農林水産省、文部科学省、環境省、(公社)国土緑化推進機構、(公社)全国漁港漁場協会、全国内水面漁業協同組合連合会と当NPOの7者で構成する実行委員会が主催し、(株)ファミリーマートをはじめとする下記の企業・団体からの支援と(公財)日本財団の助成金で実施しています。

#### [実施スケジュール]

2016年 5月 16日	参加高校生募集開始
7月 1日	募集締切り
7月 21日	参加高校生決定
8月 11日～14日	事前研修実施(於:東京)
9月～12月	名人への取材(於:全国)・聞き書き作品づくり
2017年 1月 5日	作品提出締切り・「聞き書き作品集」作成開始
3月 18日～20日	フォーラム及び15周年記念イベント開催(於:東京)
4月 25日	「聞き書き作品集」完成・発送

※6月28日と11月7日に「聞き書き甲子園」に関わる行政、企業、団体、学生スタッフ等が集まり、活動の実施状況と今後の展開について意見を交わすFOXFIRE俱楽部を開催。15周年記念事業の実施等について意見交換を行いました。

※「聞き書き甲子園」は、以下の企業・団体にご支援、ご協賛をいただいています。

募金協力・企業寄付: 株式会社ファミリーマート

協賛・協力: トヨタ自動車株式会社、富士フィルムホールディングス株式会社、アサヒビール株式会社、京王電鉄株式会社、佐川急便株式会社、株式会社ティムコ、株式会社トンボ、株式会社長塚電話工業所、株式会社ベネッセコーポレーション、BESS フォレストクラブ、一般社団法人環境文化創造研究所、公益財団法人一つ橋文芸教育振興会、公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団

助成: 公益財団法人日本財団、一般社団法人昭和会館

#### ・「聞き書き作品」電子図書館化

毎年、高校生がまとめた「聞き書き作品」は、聞き書き作品集として冊子にまとめるとともに、(一社)農山漁村文化協会(ルーラル電子図書館を運営)のご協力により、「聞き書き電子図書館」としてネット上で公開しています。本年度は、前年度の作品の収録作業を行いました。

#### ・名人の選定事業

本年度は、(公社)国土緑化推進機構により「森の名手・名人」64名、(公社)全国漁港漁場協会並びに全国内水面漁業協同組合連合会により「海・川の名人」38名が、新たに選定表彰されました。名人候補者の発掘にあたっては、当NPOに専従スタッフを置き、情報収集等の協力を実行しています。

#### ・15周年記念事業の実施

「聞き書き」の意義や価値を広く発信し、「聞き書き甲子園」への理解者や支援者を増やすことを目的に、15周年記念事業を行いました。

##### 〈15周年記念イベント〉

3月18日に行った聞き書き甲子園フォーラムでは、長年、「聞き書き甲子園」をご支援いただいている阿川佐和子氏(文筆家)の記念講演を行いました。翌19~20日には、15周年記念イベント「未来をひらく『聞き書き』の力」を開催しました。19日は、「ぼくらのアクションーそれは「聞くこと」からはじまったー」と題して、「聞き書き甲子園」を終えた高校生のアクションを紹介するトークセッションや、農山漁村地域で活躍するOB・OGのパネルディスカッションを行いました。20日は「聞き書きの可能性ー新たな価値の探求ー」と題して、教育、医療、福祉、地域づくり等、様々な分野で「聞き書き」を実践する方々を招いて事例発表を行うとともに、「聞き書き甲子園」の活動のヒントともなったアメリカ「FOXFIRE」の教育的意義についてピエモント大学のスミス夫妻にご講演いただきました。最後に、有識者によるパネルディスカッションを行い、高校生が「聞く」ことの意義や名人に「聞き書き」する価値について意見交換しました。

##### ※フォーラム及び15周年記念イベント参加人数

18日:208名 19日:174名 20日:150名

このほか、「聞き書き甲子園」の卒業生有志による「聞き書き甲子園15周年事業実行委員会」では、以下の活動を行いました。

##### 〈聞き書きオープニング〉

高校生が行う「聞き書き」の魅力を、一般の方にも体験してもらうことを目的にオープニングを開催。10名の参加者が「森の名手・名人」や「海・川の名人」に「聞き書き」を行いました。出来上がった作品は冊子にまとめ、15周年記念イベントで配布しました。

##### 〈名人再訪企画〉

かつて「聞き書き甲子園」に参加した卒業生3名が、名人を再訪し「聞き書き」を行いました。

##### 〈ウェブサイト『KIKIGAKI15』の開設〉

聞き書きの魅力を発信するサイトを開設しました。「聞き書き」作品のほか、「聞き書き」参加者へのインタビュー等を掲載しています。

## ② 海洋教育プログラムの実施

小・中学校における海洋教育の普及のために、(公財) 日本財団の助成を得て、下記の事業を行いました。

### ・日生中学校での海洋教育プログラムの実施

岡山県備前市立日生中学校には、当 NPO が 3 年前からサポートに入り、総合的な学習の時間に地元漁師への「聞き書き」を行っています。本年度は 1 年生が「聞き書き」を行い、大学生がサポートして新聞にまとめました。

また、同市で 6 月に開催した全国アマモサミットでは、中学生が 3 年間の成果を劇にして発表を行い、あわせて、前年度にまとめた「アマモガイドブック」を 700 部印刷し、販売しました。

### ・小学校での海洋教育実践事例の実施

本年度は、広島県三原市立木原小学校でも「聞き書き」の活動をサポートしました。

10 月に 5 年生 12 人が 3 グループに分かれて地元漁師に話を聞き、聞いた内容はメモに起こして、壁新聞にまとめました。

## 2. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす森づくり事業

### ① 「共存の森」の活動

農山漁村地域をフィールドに、人の暮らしと自然とのつながりを学び、未来へつなげる活動です。全国 6 地区、7 地域で実施しました。

#### ＜各地区的活動概要＞

関東：千葉県市原市の「鶴舞創造の森」で、下草刈りと散策道の整備を行い、階段を修復しました。また、山小川地区で行ってきた年配の女性への聞き書きを冊子にまとめました。

関西：滋賀県大津市堂町では、龍谷の森の自然観察を行うとともに、地区的祭りや掘割（水路清掃）などの共同作業に参加しました。また、昨年に引き続き、地域の小学校で蕎麦の栽培授業をサポートしました。

奈良県川上村高原地区では、地域の方へのヒアリングを行い、高原地区を紹介する歳時記「奥吉野 高原のへそ」を作成しました。製作にあたっては、川上村より印刷費等の補助をいただきました。

北陸：新潟県村上市高根地区では、キヤノンマーケティングジャパン株式会社（CMJ）と協働で棚田の保全活動等を行ったほか、地域の交流拠点として空き家を整備し、夏休みに子どもたちを対象とした寺子屋を開催しました。

東海：愛知県豊田市足助の椿立自治区では、若手住民とともに放置竹林から伐り出した竹を活用して竹灯籠を製作し、「綾渡の夜念佛と盆踊り」の会場に設置しました。前年度に広葉樹を植樹した竹の伐採跡地では、草刈りや獣害対策の柵の設置等の手入れを行いました。

中国・四国地区：岡山県備前市日生では、日生中学校の海洋教育の支援のほか、漁協が行うアマモ場の再生活動に参加しました。また、日生の魚料理について地元の方に教わりました。

九州：福岡県八女市矢部村では、NPO 法人全国愛樹祭コスモネットに協力いただき、地域の暮らしを学ぶための「聞き書き」と、「杣のふるさと文化館」裏の森の手入れを行い、人の集う公園づくりについて地元の方と検討しました。

## 《活動回数と参加者》

関東地区	4回、延べ49人（1回当たり平均12.3人）
関西地区	[堂] 6回、延べ21人（1回当たり平均3.5人）
	[高原] 4回、延べ11人（1回当たり平均2.8人）
北陸地区	5回、延べ50人（1回当たり平均10人）
東海地区	8回、延べ45人（1回当たり平均5.6人）
中国・四国地区	3回、延べ24人（1回当たり平均8人）
九州地区	2回、延べ7人（1回当たり平均3.5人）

活動回数：フィールドでの活動のみ（会議、打ち合わせ等は除く）

参加者：活動に協力いただいている地域の方や事務局スタッフ等は除く。

## 《助成》

- （公社）国土緑化推進機構「緑の募金」中央公募事業  
（公財）パブリックリソース財団「未来につなぐふるさとプロジェクト基金」（北陸地区）  
NPO法人おかやま環境ネットワーク 2016年度助成（中国・四国地区）  
（公社）国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」（九州地区）

## ② キヤノンマークティングジャパングループとの協働活動

キヤノンマークティングジャパングループの社会貢献活動「未来につなぐふるさとプロジェクト」の協働パートナーとして、新潟県村上市高根地区で「棚田のふるさとづくり」の活動を実施しました。今年度も、高根フロンティアクラブの協力により、稲作体験や高根の暮らしや自然を体験するプログラムを実施。また、地域住民の参加による写真教室もあわせて開催しました。

《活動回数と参加者》 4回 延べ67人（1回あたり平均16.8人）

## ③ ond（オンド）の実施

昨年より始まったondプロジェクトは「地域のond(音頭)を取る、地域のond(温度)を少し上げる若者の挑戦」を支援するため、本年度は、高校生から大学2年生までの個人プロジェクトを支援する「疾走コース」と、大学1年生から20代の社会人を中心としたグループを支援する「創造コース」の2つを実施しました。聞き書き甲子園の卒業生を中心に、それぞれのコースの公募を行い、疾走コースは4プロジェクト、創造コースは3プロジェクトを採択しました。プロジェクトの選考にあたっては、トヨタ財団プログラムオフィサーの加藤剛さんと当NPOの理事で選考会を実施し、検討を行いました。

なお、活動支援は、（公社）国土緑化推進機構「緑の募金」中央事業と当NPOへの寄付金や賛助会費をあてて実施しました。

### 【疾走コース】

本年度、「疾走コース」は第2期となりました。第1期からの継続は、山崎紀奈里さんの「あまVege」（アマモを肥料に野菜をつくる）と、谷端美紀さんの「とっとり漁師プロジェクト」。新規は、篠原万菜さんの阿波牛のリアルを伝える「もうさんの瞳プロジェクト」と、高本梨花さんの「阿蘇へ人をつなぐ！」（復興支援ツアー）が選ばれ、これらの活動を支援しました。また、谷端さんのプロジェクトをきっかけに鳥取県庁から委託を受け、鳥取の暮らしを伝えるフリーマガジン（まなざし）を発刊するというondの枠を超えたアクションも生まれました。

## 【創造コース】

農山漁村地域の課題と向き合い、その解決に取り組むアクションを支援するコースで、これまで「共存の森づくり」を行ってきた複数の地区が応募しました。その結果、北陸地区（米づくりを通して地域内外の世代間交流を深める）、東海地区（地域の暮らしを体験し学ぶ場をつくる）、九州地区（地域内外の子どもが訪れる森林公園づくり）の3地区が支援対象となりました。

### 3. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす活動の普及・啓発事業

#### ① 「学校の森・子どもサミット」の開催

「学校林」等、身近な緑を活用した体験活動や教育活動の発表、先生方との意見交換等を通じて、小・中学校の森林環境教育の輪を全国に広げていくことを目的に開催しています。林野庁とその関連団体等によって構成する実行委員会が主催し、当NPOは事務局を担っています。

3年目となった本年度は、より多くの学校が参加し、意見交換が行えるよう、夏大会と冬大会の2回に分けて実施しました。

夏大会は「森林環境教育と防災・減災教育」をテーマに、8月4日～5日に宮城県で開催しました。初日は仙台市福祉プラザふれあいホールで、11校43名の児童がそれぞれの学校の取り組みを発表しました。あわせて浅田和伸氏（文部科学省大臣官房審議官）による基調講演や、有識者によるパネルディスカッションを行いました。来場者は約190名。参加した児童は1日目の夜から2日目にかけてクラフト体験や森づくり体験を行い、引率の教員はグループディスカッションを通して森林体験活動のカリキュラム作りについての意見交換を行いました。

冬大会は1月28～29日にかけて東京・日比谷にて開催し、9校が発表を行いました。また、2日目は明治神宮の森で体験活動を実施しました。冬サミットについては事務局を公益財団法人ニッセイ緑の財団が担い、当NPOはそのサポートを行いました。

※「第2回 学校の森・子どもサミット 夏大会」は、以下の企業・団体にご支援、ご協賛をいただいています。

特別協賛：積水化学工業株式会社、一般財団法人セブン-イレブン記念財団

協賛：三井ガーデンホテルズ、三菱UFJニコス株式会社、日本郵便株式会社、カメリ株式会社、清水建設株式会社、トヨタ自動車株式会社、東北ミサワホーム株式会社、北星林業株式会社、前田建設工業株式会社、一般財団法人日本森林林業振興会青森支部、一般社団法人青森林業土木協会、全国国有林造林生産業連絡協議会、一般社団法人日本森林技術協会、公益財団法人才イスカ宮城県支部、一般社団法人全国森林レクリエーション協会、一般社団法人全国木材組合連合会、宮城中央森林組合

助成：積水ハウスマッチングプログラム、公益社団法人国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」

#### ② 「第4回 海辺の自然再生・高校生サミット」の開催

「海辺の自然再生・高校生サミット」は、全国でアマモ場の再生活動等に取り組む高校生の発表と交流を通して、次世代に活動の輪を広げていくことを目的に、毎年「全国アマモサミット」の開催とあわせて実施しています。本年度は、昨年度に引き続き、公益財団法人セブン-イレブン記念財団より助成いただき、当NPOと、NPO法人海辺つくり研究会が主催し、開催しました。

6月5日、全国から11校36人の高校生が参加し、日生市民会館で発表を行いました。当NPOの「あまVege」(ond 疾走コース)についても山崎紀奈里さんが活動紹介を行いました。会場には海辺の自然再生に携わる団体、行政、漁協関係者や岡山県内で同様の取組みを行う中高校生らが集まり、発表後には熱心な質疑応答が行われました。また、6月3日には、フィールド活動として「流れ藻回収大作戦」に参加し、漁船に分乗してアマモの採種のための花枝回収作業を行い、日生で長年行われてきた、漁師たちによるアマモ場再生活動の一端を体験しました。

### ③ インドネシアの地方言語と伝統的知識の継承のための「聞き書き」の普及

スラウェシ島ドンガラ県とジャワ島ボゴールの2地区で、インドネシアの地方言語と伝統的知識の継承を目的とした高校生による「聞き書き」の成果報告会を島上宗子氏（一社あいあいネット共同代表）の協力により実施しました。

ドンガラ県では、7月25日に県庁ホールで開催。政府関係者のほか、近隣の高校教員等、約60名が参加し、代表高校生は、マングローブ林を再生する名人や薬草栽培の名人の「聞き書き」を発表しました。

ボゴールでは、7月28日にボゴール農科大学付属コルニタ高校で成果発表会を行いました。コルニタ高校では、活動に参加した3年生有志がプログラムを企画。今後「聞き書き」を行う2年生（約40名）を対象に、「聞き書き」の研修も兼ねた発表会を開催しました。過去に「聞き書き」を経験した大学生も応援に駆けつけ、それぞれの体験談を発表。先輩による講義やインタビューの実践等も行う、充実したプログラムになりました。

なお、本年度は、トヨタ環境活動助成プログラムの助成による2年間の活動の締めくくりの年にあたります。今後、さらに現地で「聞き書き」を普及するために、インドネシア語版「聞き書き」テキスト（3000部）を作製しました。また、今後の展開に向けて、カリマンタン島の中カリマンタン州パランカラヤ市を訪問し、市長らと意見交換を行いました。カリマンタン島では近年、森林火災等による森林の消失が激しく、ダヤック族の伝統的な暮らしが脅かされています。今後、ダヤック族の生活文化を記録するための「聞き書き」実施を検討することになりました。

## 4. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす地域づくり事業

### ① 「世界農業遺産」地域の聞き書き

国際連合食糧農業機関（FAO）は、グローバル化、環境悪化、人口増加の影響により衰退の途にある伝統的な農業や文化、土地景観の保全と持続的な利用が図られている地域を「世界農業遺産」に認定しています。日本国内で同遺産に選定された「能登の里山里海」（2011年認定／石川県）と「クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」（2014年認定／大分県）の2地域では、地元高校生が地域の持続可能な知恵を未来に引き継ぐ「聞き書き」を実施。その運営を当NPOが受託しています。

#### ・能登の里山里海人の知恵の伝承事業

前年度に引き続き、石川県世界農業遺産活用実行委員会より委託を受け、「能登の里山里海人の知恵の伝承事業」を実施しました。9校19名の高校生が参加し、9人の「能登の里山里海人」の聞き書きを行い、それらを作品集にまとめました。

#### ・大分県国東半島宇佐地域での高校生による聞き書き

前年度に引き続き、大分県から委託を受けて「国東半島・宇佐地域での高校生による聞き書き事業」を実施しました。9校23名の高校生が参加し、9人の名人への聞き書きを行い、それらを作品にまとめることを指導を行いました。

### ② 真庭なりわい塾の実施

「真庭なりわい塾」は、岡山県真庭市中和地区を主なフィールドとし、「あるく・みる・きく」ことを通して、地域を学び、これから生き方・働き方、持続可能な社会のカタチを考える人材育成塾です。岡山県真庭市、中和地区住民、当NPOの3者による実行委員会が主催し、当NPOは真庭市交流定住推進課とともに事務局を担っています。本年度は、第1期塾生として、20代から50代の学生及び社会人25名を迎えて、2016年5月から2017年2月までの計9回の講座を実施しました。また、第2期の基礎講座の塾生募集に伴い、岡山・大阪にてプレイベント、真庭

市中和地区で2回の現地見学・説明会を開催しました。

なお、同塾は、(公財)トヨタ財団の助成と真庭市の補助を得て実施しています。

## 5. その他

### ① インターン生の受入れ

公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団の「CSO ラーニング制度」により、2015年6月から翌1月まで、國學院大學大学院博士課程1年生の山口くるみさんと創価大学4年生の鈴木廣忠さんをインターン生として受け入れました。

### ② 広報活動

会報誌『ZON』(年2回発行)、ホームページ、facebook、オフィシャルブログ、公式twitter、メールマガジン等を通して、広報活動を行いました。

また、「聞き書き甲子園」の高校生募集期間には、東京・竹橋の毎日新聞本社にある「毎日メディアカフェ」にて、「聞き書き甲子園」卒業生によるトークセッションを行いました。

外部のイベントでは、12月8日から10日にかけて東京ビッグサイトで実施されたエコプロダクツ展に出展しました。

[新聞・雑誌・ネット記事等の掲載]

「聞き書き甲子園」関連： 36件 「学校の森・子どもサミット」関連： 9件

その他：19件

# 第1号議案-2 2016年度決算報告

## 1. 2016年度 活動計算書

### 平成28年度 活動計算書

平成28年5月1日から平成29年4月30日まで

認定特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク

(単位:円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費	255,000		
賛助会員受取会費	325,000	580,000	
2 受取寄附金			
受取寄附金		659,043	
3 受取助成金等			
受取助成金	43,220,200		
受取協賛金	15,028,492		
受取補助金	2,918,297	61,166,989	
4 事業収益			
青少年教育事業収益(注1)	131,350		
普及啓発事業収益(注2)	14,182		
森づくり事業収益(注3)	923,654		
地域づくり事業収益(注4)	3,648,964	4,718,150	
5 その他収益			
受取利息	324		
雑収益	246,746	247,070	
経常収益計			67,371,252
II 経常費用			
1 事業費			
(1)人件費			
理事報酬	2,880,000		
給料手当	10,281,618		
法定福利費	1,611,244		
人件費計	14,772,862		
(2)その他経費			
広告宣伝費	153,989		
活動費	300,000		
印刷費	3,785,914		
支払手数料	435,892		
制作費	4,392,807		
施設借上費	1,680,025		
講師料	2,165,401		
リース料	670,032		
原稿料	33,411		
水道光熱費	5,791		
車両借上費	3,027,286		
事務用品費	448,079		
消耗品費	204,550		
地代家賃	1,850,000		
保険料	127,631		
租税公課	400		
旅費交通費	24,944,351		
通信運搬費	1,273,891		
諸会費	7,500		
会議費	805,629		

新聞図書費	62,219		
委託費	2,775,825		
道具資材費	210,575		
雑費	75,685		
その他経費計	49,436,883		
事業費計		64,209,745	
2 管理費			
(1)人件費			
給料手当	728,000		
法定福利費	123,697		
人件費計	851,697		
(1)その他経費			
印刷費	166,428		
支払手数料	377,721		
制作費	133,644		
車両借上費	864		
事務用品費	70,440		
消耗品費	127,864		
保険料	23,000		
租税公課	209,410		
旅費交通費	29,080		
通信運搬費	254,014		
諸会費	2,000		
会議費	53,293		
委託費	271,479		
雑費	316,385		
繰延資産償却	75,000		
その他経費計	2,110,622		
管理費計	2,962,319		
経常費用計		67,172,064	
当期経常増減額		199,188	
税引前当期正味財産増減額		199,188	
当期正味財産増減額		199,188	
前期繰越正味財産額		17,455,051	
次期繰越正味財産額		17,654,239	

## 2. 2016年度 計算書類の注記

### 平成28年度 計算書類の注記

認定特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク

#### 1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準(平成22年7月20日 平成23年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

##### (1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

#### 2. 事業別損益の状況

(単位:円)

科目	青少年教育事業(注1)	森づくり事業(注2)	普及啓発事業(注3)	地域づくり事業(注4)	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益					0		
1. 受取会費		434,425	224,618		659,043		659,043
2. 受取寄附金	40,332,530	3,723,585	10,915,186	6,145,688	61,116,989	50,000	61,166,989
3. 受取助成金等	131,350	923,654	14,182	3,648,964	4,718,150		4,718,150
4. 事業収益	50,000	78,646	64,000		192,646	54,424	247,070
5. その他収益							
経常収益計	40,513,880	5,160,310	11,217,986	9,794,652	66,686,828	684,424	67,371,252
II 経常費用							
(1) 人件費							
理事報酬	1,680,000		240,000	960,000	2,880,000		2,880,000
給料手当	7,454,598		892,020	1,935,000	10,281,618	728,000	11,009,618
法定福利費	1,165,945		142,076	303,223	1,611,244	123,697	1,734,941
人件費計	10,300,543	0	1,274,096	3,198,223	14,772,862	851,697	15,624,559
(2) その他経費							
広告宣伝費	35,964		28,539	89,486	153,989		153,989
活動費		300,000			300,000		300,000
印刷費	2,544,280	350,468	871,696	19,470	3,785,914	166,428	3,952,342
支払手数料	305,068	4,640	114,024	12,160	435,892	377,721	813,613
制作費	2,048,466	511,600	1,110,000	722,741	4,392,807	133,644	4,526,451
施設借上費	830,355	202,300	272,430	374,940	1,680,025		1,680,025
講師料	1,538,719	55,000	15,000	556,682	2,165,401		2,165,401
リース料	446,688		223,344		670,032		670,032
原稿料				33,411	33,411		33,411
水道光熱費	3,340	2,351		100	5,791		5,791
車両借上費	1,415,657	780,047	562,886	268,696	3,027,286	864	3,028,150
事務用品費		325,791	7,081	106,656	8,551	448,079	70,440
消耗品費		122,421	68,341	13,788		204,550	127,864
地代家賃	1,150,000		600,000	100,000	1,850,000		1,850,000
保険料	119,611			8,020	127,631	23,000	150,631
修繕費						0	0
租税公課				400	400	209,410	209,810
旅費交通費	16,583,510	1,757,913	3,518,853	3,084,075	24,944,351	29,080	24,973,431
通信運搬費	726,061	78,245	433,647	35,938	1,273,891	254,014	1,527,905
諸会費	3,500	4,000			7,500	2,000	9,500
会議費	290,535	135,468	300,332	79,294	805,629	53,293	858,922
新聞図書費		17,291		44,928	62,219		62,219
委託費	1,403,571	574,000	735,854	62,400	2,775,825	271,479	3,047,304
道具資材費	130,479	54,223	25,873		210,575		210,575
雑費	11,790	41,281	3,174	19,440	75,685	316,385	392,070
繰延資産償却					0	75,000	75,000
その他経費計	30,035,806	4,944,249	8,944,116	5,512,712	49,436,883	2,110,622	51,547,505
経常費用計	40,336,349	4,944,249	10,218,212	8,710,935	64,209,745	2,962,319	67,172,064
当期経常増減額	177,531	216,061	999,774	1,083,717	2,477,083	-2,277,895	199,188

#### 3. 事業正式名称

(注1)人の暮らしと自然をテーマとした青少年等に対する学習・教育事業

(注2)「共存」を基本とした社会の実現をめざす森づくり事業

(注3)「共存」を基本とした社会の実現をめざす活動の普及・啓発事業

(注4)「共存」を基本とした社会の実現をめざす地域づくり事業

### 3. 2016年度 財産目録

#### 平成28年度 財産目録

平成29年 4月30日現在

認定特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク

(単位:円)

科 目	金 額
I 資産の部	
1 流動資産	
現金預金	
手元現金	287,260
(株)三井東京UFJ銀行 本店 普通預金	0
(株)三井東京UFJ銀行 本店 普通預金	15,990,137
(株)三井住友銀行 世田谷支店 普通預金	2,532,460
(株)みずほ銀行 世田谷支店 普通預金	12,793,560
(株)ゆうちょ銀行 ○一八支店 普通預金	300,142
未収入金	
(公社)国土緑化推進機構	6,998,065
(公財)トヨタ財団	1,500,000
川上村	974,700
(株)エスパシオ	64,000
前払費用	
(有)オフィス・ポーラスター	300,000
Airbnb	53,443
ラディックス(株)	39,528
アスクル	36,730
PIF区部ユース・プラザ(株)	10,044
ヤマト運輸(株)	1,058
日本郵便(株)	508,291
名古屋市芸術創造センター	2,400
JBF印刷通販	6,761
アウトライン	6,848
東海旅客鉄道(株)	34,050
西日本旅客鉄道(株)	22,220
伊勢鉄道	3,660
名古屋鉄道	1,420
(株)大阪さやま交通	5,900
NEXCO中日本	7,540
愛知県道路公社	310
フォレストピア宮川山荘	15,846
JAあいちエネルギー	2,798
名鉄商協パーキング	500
あさひパーキング葵2丁目	800
岡由衣	3,350
渡辺光	30,000
鈴木まり子	37,440
内藤麻美子	25,400
流動資産合計	42,596,661

2 固定資産			
投資その他の資産			
敷金	600,000		
固定資産合計		600,000	
3 繰延資産			
礼金	525,000		
繰延資産合計		525,000	
資産合計			43,721,661
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金			
従業員給料・交通費	870,900		
世田谷年金事務所	342,095		
ヤマト運輸(株)	15,465		
日本郵便(株)	41,220		
ニッポンレンタカーサービス(株)	84,149		
アスクル	10,912		
オリックス(株)	55,836		
内藤麻美子	100,000		
鈴木まり子	200,000		
関友美	94,280		
(株)エー・アイ・コンサルティング	57,300		
(株)ダイオーズジャパン	10,044		
(株)トライ	863,244		
(株)三菱東京UFJ銀行	48,060		
岩井友子	439,639		
北口彩子	463,519		
ラディックス(株)	86,231		
樋口潤一	403,496		
(株)こっぱ舎	100,000		
(有)吉田屋	108,000		
渋澤壽一	44,895		
駒宮博男	71,832		
富士フィルムイメージングシステムズ(株)	85,320		
アサヒビジネス(株)	38,880		
前受金			
北陸活動	1,027,944		
(株)長塚電話工業所	100,000		
真庭なりわい塾	1,218,609		
関西活動(川上村)	388,670		
(特非)日本エコツーリズム協会	2,000,000		
学校の森・子どもサミット活動	1,404,733		
(公財)パブリックリソース財団	639,179		
(一社)全国森林レクリエーション協会	50,000		
積水化学工業(株)	1,000,000		
積水ハウス(株)	700,000		
もりのくに・にっぽん運動活動	8,108,551		
(特非)海辺つくり研究会	866,848		
(公社)国土緑化推進機構	3,500,000		

預り金			
源泉所得税	401,271		
住民税	26,300		
流 動 負 債 合 計		26,067,422	
負 債 合 計		26,067,422	
正 味 財 産			17,654,239

#### 4. 2016年度決算についての監査報告書

#### 監査報告書

認定特定非営利活動法人 共存の森ネットワークの  
2016年度決算について監査の結果、事業報告は事業の  
内容を適切に反映していると認めます。

2017年 6 月 16 日

認定特定非営利活動法人

共存の森ネットワーク

監事 稲本 朱珠

## 監査報告書

認定特定非営利活動法人 共存の森ネットワークの

2016年度決算について監査の結果、事業報告は事業の

内容を適切に反映していると認めます。

2017年 6 月 16 日

認定特定非営利活動法人

共存の森ネットワーク

監事 河合 和香

## 事務局

吉野 奈保子（事務局長）  
森山 紗也子  
小関 緑  
内藤 麻美子  
関 友美  
鈴木 まり子  
神吉 佳奈子

認定特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク

〒156-0043 東京都世田谷区松原 1-11-26 コスモリヴェール松原 310 号  
TEL: 03-6432-6580 FAX: 03-6432-6590 E-mail: mori@kyouzon.org  
<http://www.kyouzon.org/>